
貧民屋

古尾 光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

貧民屋

【Zマーク】

N11821

【作者名】

古尾 光

【あらすじ】

国から雇われたプロのホームレス。そんな彼らの日常。

俺達、ホームレスの職場は駅前や公園だ。主な仕事と言えば、駅のゴミ箱漁りや物乞いだ。人に蔑まれ、惨めに暮らす、楽な仕事だ。時に殴られたりはするが、反撃してはいけない、それがプロだ。え、なぜホームレスにプロがいるのかって？

詳しい理屈は良く分からぬが、人は自分より下の人間が居ると安心するらしい。奴隸みたいなサラリーマンが俺達を見ると、あはなりたくない、頑張るのだそうだ。実際、奴隸は、奴隸なのにな。夜、定時になつたので、ある公園にむかう。そこのトイレの裏、掃除用具入れに似せた地下への扉を開ける。10メートルほど地下に潜ると、開けた場所にでる。

「よお、あがりかい」

「ああ、早く風呂に入りたいぜ」

「俺はこれから仕事だ。まあ、ゆっくり休めよ」

「そつちこそ、がんばれよ」

同僚と軽い挨拶の後、風呂場に向かう。自分の番号のロッカーに仕事着を仕舞い、檜造りの浴場に入る。3日分の垢を擦り落とした後、湯船につかっていると同僚が入ってきた。良く見るとアザだらけだ。

「ホームレス狩りか？」

「ああ、高校生みたいな3人にやられた」

「にしては軽症だな」

「惨めつたらしく、やめてくれ〜、と泣き真似したら笑いながら帰つていつたよ」

そういうつて笑う。ホームレス狩りに遭うと特別手当てとして、海外旅行が支給される。同僚にしたら高校生に感謝したいぐらいだろう。

「あがつたらどうだい、一杯」

クイックと手をひねり、酒を飲む真似をする。

「お、いいね」

風呂場をあがると清潔な部屋着に着替え、娯楽室に移動する。

仕事上、外にでる時は臭い仕事着を着なくてはいけないので、普通の飲み屋などの店にはいけない。しかし、地上でできる娯楽は大体、この地下に揃っていた。

セルフサービスのビールを注ぎ椅子に座る。

「じゃあ、乾杯と行くか」

ジョキを持ち上げ、構える。乾杯の音頭は毎回決まっている。

『貧民、万歳』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1182i/>

貧民屋

2010年12月17日02時32分発行